

福島第一原子力発電所の状況

平成 26 年 6 月 25 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (6/25 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力	原子炉格納容器 水素濃度	
1号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 1.9 m ³ /h	25.4	3.9 kPa g	A系： 0.01	Vol%
		給水系：約 2.4 m ³ /h			B系： 0.01	Vol%
2号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 2.5 m ³ /h	33.9	5.12 kPa g	A系： 0.05	Vol%
		給水系：約 2.0 m ³ /h			B系： 0.04	Vol%
3号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 2.4 m ³ /h	32.1	0.23 kPa g	A系： 0.05	Vol%
		給水系：約 2.0 m ³ /h			B系： 0.05	Vol%

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (6/25 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	25.5
2号機	循環冷却システム	運転中	23.8
3号機	循環冷却システム	運転中	24.3
4号機	循環冷却システム	運転中	23.1

各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘドヒドラジンの注入を適宜実施。

[3号機]

- 6/24 6:10 使用済燃料プール代替冷却系について、凍土遮水壁の準備作業の一環として変圧器受電ケーブル移設を実施するため冷却を停止(停止時プール水温度:23.5)。停止時間は約10時間を予定しており、冷却停止時のプール水温度上昇率評価値は 0.117 /h であることから、停止中のプール水温上昇は約2 と評価。運転上の制限値 65 に対して余裕があり、使用済燃料プール水温管理上問題はない。
- 16:46 作業が終了したことから、使用済燃料プール代替冷却系を起動。なお、運転状態について異常なし。また、使用済燃料プール水温度は冷却停止時の 23.5 から 24.3 まで上昇したが、運転上の制限値 65 に対して余裕があり、使用済燃料プール水温度の管理上問題ない。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元	移送先	移送状況
3号機	3号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設(雑固体廃棄物減容 処理建屋[高温焼却炉建屋])	6/16 14:42 ~ 移送実施中

< 4. 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (6/25 11:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)	多核種除去設備 (ALPS)
運転 状況	停止中*1	運転中*1	停止中	水バランスを みて断続運転	水バランスを みて断続運転	ホット試験中*2

*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。

*2 高性能容器(HIC)交換等を適宜実施。

< 5. その他 >

- ・H26/1/29 ~ 2号機海水配管トレンチ凍結止水工事における凍結管を設置するための削孔について、凍結管を設置するための削孔を実施中。削孔作業と並行して、3/27より挿入作業ができるようになった孔から順次、凍結管およびパッカー挿入の作業を開始。
- 4/2 ~ 挿入が完了した凍結管について凍結を開始。

4/28～4/26に全17本の凍結管の挿入作業、そのうち13本のパッカー設置作業が終了したことから、凍結管全17本の凍結運転を開始。今後、1ヶ月程度で凍結の壁を造成していく予定であり(6月頃完了予定)、凍結状況については、測温管にて確認していく。

・H26/3/14 13:35～ 共用プール西側において、凍土遮水壁の実証試験(凍結試験)を開始。

・H26/6/2～ 凍土遮水壁工事を開始。

・H26/6/25 地下水バイパスにおける一時貯留タンク(Gr1)に貯留してある水について、当社および第三者機関による分析結果(6/15採取)において、運用目標値を満足していることを確認したことから、6/26午前中、準備が整い次第海洋への排水を開始する予定。

[地下水バイパス揚水井の状況]

・地下水バイパス揚水井 No.1～12のサンプリングを継続実施中。

<最新のサンプリング実績>

地下水バイパス揚水井 No.12:6/23採取分

・全ベータ :検出限界値未満(検出限界値:4.4 Bq/L)

・トリチウム:2,100 Bq/L

その他の揚水井(No.2,4,6,8,10:6/23採取分)の測定結果については、前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

また、地下水バイパス揚水井 No.12の分析結果(6/19採取分)については、第三者機関による分析においても同等の結果だった。なお、地下水バイパス揚水井 No.12については運用目標値を超えているが、一時貯留タンク側の評価を行った結果、問題はなかった。

地下水バイパス揚水井 No.12:6/19採取分

・全ベータ :検出限界値未満(検出限界値:4.1 Bq/L)

・トリチウム:1,800 Bq/L(第三者機関の測定結果:2,000 Bq/L)

[H4,H6エリアタンク周辺観測孔(周辺排水路含む)の状況、タンクパトロール結果関連]

<H4エリア周辺のサンプリング実績>

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

<福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績>

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

<H6エリア周辺のサンプリング実績>

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

[タービン建屋東側の地下水調査/対策工事の実施状況]

<地下水観測孔サンプリング実績>

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

[地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績]

<地下貯水槽サンプリング実績>

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

以上